平成３０年度第１回館林市子ども・子育て会議　会議録概要

１　日　　時　　平成３０年１０月２９日（月）午後３時００分～４時３０分

２　場　　所　　市役所５階研修室

３　出 席 者

【館林市子ども・子育て会議委員】　１２名

森会長、大谷委員、角田委員、倉上委員、荻野委員、鎌田委員、荒川委員、飯塚委員、阪田委員、小澤委員、平林委員、田端委員（以上名簿順）

【事務局】　１０名

保健福祉部　：中里部長

こども福祉課：石崎課長、妻神子育て支援係長、萩本保育係長、恩田主任、砂賀

児童センター：鏡所長

健康推進課：野澤課長、武政母子保健係長

教育総務課：鈴木課長、武井総括係長

学校教育課：上村課長、山口学事係長

生涯学習課：石井課長

【委託業者】

株式会社ワイズマンコンサルティング　山口研究員

【傍聴者】　なし

４　議　　事

(1)館林市子ども・子育て支援事業計画　平成 29 年度実績について

(2)第 2 期館林市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査について

(3)その他

５　配布資料

・会議次第

・館林市子ども・子育て支援事業計画　平成 29 年度実績について　資料１

・第 2 期館林市子ども・子育て支援事業計画策定について　資料２

・参考　平成 25 年度実施　子育て支援ニーズ調査票

・幼児無償化について

６　会議内容（概要）

1. 開　　会
2. あいさつ
3. 議　　事
(1) 館林市子ども・子育て支援事業計画　平成 29 年度実績について
・事務局より説明　資料１

【質疑応答等】

会　　長：5 ページの（6）幼稚園在園児を対象とした一時預かり事業について、とても頑張ってくださっている。幼稚園は教育的な姿勢が高い中で、保護者のことも考えて対応を考えていることは非常にありがたいことと思う。6 ページの（7）幼稚園在園児以外を対象とした一時預かり事業の保育士不足と待機児童の解決方法として保育士確保のためには給料を上げるという話が出ていたかと思うが、認定こども園化の流れがある中で、館林市は公立保育園、幼稚園が多いがどのような考えがあるのか。

事 務 局：総合教育会議の中で、幼稚園・保育園の在り方について問題提起をしている。待機児童の問題や母親の働き方も変わってくるなど様々な問題が関わってくるため、どのような方向でやっていくかはこれからになる。ただ、教育委員会と福祉部局との定期定な内部の打合せはやってきたが、それに加えて全庁的に機構や定数等に影響してくる可能性があるため、企画課や人事課等含めて検討が始まった段階。一般的に色々な視点がある中で、今は待機児童がかなり出ているが、このあともずっと出続けるかというと、9 ページの（12）をご覧いただくと、乳児家庭全戸訪問事業は、子どもの産まれた数にも読み取れると思う。実績値から年々減ってきていることを考えると、待機児童について長期的に見ればそんなに多くは出てこないことが予想される。現時点では、お母さんの働き方が変わり預ける年齢も 0～2 歳児が多くなることを考えると、当然先生の数も必要となってくる。スペースがあっても、先生の数の関係で待機児童が発生してしまうことがあるかもしれない。

そういう中において、今検討されているのは、長期的に見て待機児童がそんなに出ないのであれば、今ある仕組みをあまり大枠は変えずに、例えば、延長保育を 17 時まで行い、朝の延長も検討するなど、幼稚園側の対応を少し変えるだけで大きな枠組みの変更をしなくても対応できる場合も出てくる。一方、待機児童以外の問題もあるから抜本的に改革したほうが良いというのであれば、幼稚園・保育園のこども園化を行う。また、一方、保育園が足りないから、幼稚園１園を保育園にして保育園の数を増やすなど、色々な考え方があると思う。その色々な考えについて検討に入った段階。

会　　長：私が思ったのは、幼児教育をしっかりしてきてくださっている幼稚園の先生方の

素晴らしさ。学生達の実習巡回で回らせていただくととても素晴らしい。特に公立は歴史があるから、館林市も含め優秀な先生達が多い。それが横に流れない。保育園も頑張っているが、中々幼児教育に特化した流れというのはない。まずは子どもと保護者の支援が第一にあるため、そちらを手厚くしている保育園が多いと思う。混ぜれば良いという意見はあるが、そう簡単ではなくもったいないと思ってしまう。

事 務 局：抜本的に改革するのであれば、認定こども園という形として混ぜるというのが一つの方法。枠組みを変えずにするのであれば、幼稚園と保育園の職員の交換交流をすることによって、良い部分が吸収できるのではないかと思う。

委　　員：その場合、免許はどうなるのか。

事 務 局：若い先生は90％以上持っていると思う。保育園のほうは、幼稚園の免許を持っていない先生は12％くらいいる。

会　　長：総合教育会議の中で、館林市としての幼稚園・保育園の在り方をしっかりご検討いただきたい。

委　　員：3ページの（3）放課後児童クラブについて、現在待機児童はいないが定員を超えて預かっているのが現状。少子化のため子どもは減っているが、母親の働き方等で学童の利用率は高くなっている。今後将来、子どもが増えていくという訳ではなく明らかに減少していくことから、無駄な投資をする必要はなく、新放課後子ども総合プランなどを基に学校を利用した放課後子ども教室などと併用して解決していくしかない。前回のニーズ調査結果からも、毎日ではなく１週間のうち数日だけ子どもを預けたい人がいることから、放課後子ども教室を積極的に進めていただきたい。

会　　長：市内の放課後子ども教室の状況を教えていただきたい。

事 務 局：放課後子ども教室は市内にはない。問題は運営する担い手。青少年の健全育成を考えているボランティア団体がいくつかあるが、今は指導者の講座や子どものカウンセリング講座などを実施して、人材を育てている状況。地域の担い手はたくさんいて、子どもの育成会やＶＹＳ、ジュニアリーダーズクラブ等が講座の手助けをしてくれ、地域でできることをしていただいている。

委　　員：ボランティア団体や指導者育成は大事なことと思う。放課後児童クラブの指導員といわれている方たちは、どういった人材がやっていたかということを振り返ってもらいたい。昔は近所の方がやっていた。今は県が行う研修を受けていないとできない。最初は緩い形で始まり、そのリスクはクラブで負っていた。誰かがリスクを負って最初の入口を作り、その中に入ってきた人達を育成するという考え方もあると思う。それも含めてご検討いただきたい。

⑵第２期館林市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査について

・事務局よりニーズ調査及び委託業者の紹介
・委託業者より説明　資料２

【質疑応答等】

委　　員：気になっているのが乳児家庭全戸訪問事業について。今時のお母さんは訪問をすごく嫌がっている。母子保健推進員さんが熱心に何度訪問しても留守だったり、出てきてくれなかったりする。若いお母さんが心を開いてくれない現実があり、母子保健推進員さんは苦労している。もう少し違う方法でもあれば良いと思う。ニーズ調査で入れていただけるのであれば、子育てに係る各サービスの説明の追加、子育てに関する情報の入手方法についても調査項目に追加していただきたい。また、どのような方法が受け取りやすいのか。ネットなのか紙なのか。調査方法についても、ネットでの回答ができるようにしていただきたい。

委　　員：若いお母さん達はネットで良いかと思う。それに関しては考える余地があると思う。国勢調査についてはネットもできるようになっている。できる部分とできない部分があるかとは思う。また、母子保健推進員さんの件だが、私は主任児童委員をやっていて母子保健推進員さんと良く関わる。母推さんの手を補っているのが保健師さんで、各地区を担当している保健師さんが必ず訪問している。

事 務 局：母子手帳発行時に配布させていただいている案内の一つに、母子保健推進員が訪問させていただきますという内容のお手紙もあり、同時に説明もさせていただいている。先程ネットの話もあったが、母子保健手帳発行時や健診時に、ぽんちゃんの子育て応援ガイドブックに子育て支援モバイルサービスの QR コードを掲載させていただいており、このようなサービスも行っている。

委　　員：前回の調査でも当たったが、このニーズ調査結果はどのように活用されているのか。市の事業にどう活かされているのかが分かれば、頑張って回答しようと思う。館林市は外国籍の方が多いと感じている。子育て支援センターに行くと、そのような方はいない。この調査をそのような家庭にも配るのか。その場合は分からないのではないかとも思った。また、パパママ学級で昔と今で違うのは、昔は同窓会があったが今はなくなってしまった。今もあると良いと思う。子育て支援センターの登録率が 22%というのは、とても低いと思う。支援センターの先生とも良く話すが利用率も低いとのことで、もったいないと思う。

委　　員：息子が学童に行っているが、以前も話したが、長期休みの時だけ預かってもらえれば助かるという家庭が多い。学校が終わってから親が帰ってくるまでの 2 時間くらいは待っていられるが、長期休みとなると難しくなってくる。高学年になると逆に危ないことをしてしまいそうで心配になってくるという親御さんもいる。

委　　員：ファミリー・サポート・センター事業で、今後の課題でまかせて会員の増員とあるが、もし自分がまかせて会員になろうと思ったときに不安を感じてしまう。

事 務 局：預かってみたいけれども不安という方はいらっしゃると思うが、平林委員が今年まかせて会員になっていただいたのでいかがでしたか。

委　　員：私は不安には思わないが、研修が 24 時間あり、まず時間確保がハードルとなってしまうのではないか。

会　　長：研修は無料で受けられる。多くの方にまかせて会員になっていただきたい。行政に頼むだけではなく、地域で助けあう気持ちが必要。

委　　員：調査票について、前回の調査を受けてどのように変わったのかということが最初にあって、だから今回も調査回答をお願いしたいという流れが良いと思った。また、学童についてだが、四小は学校で学童をやっていると思うが、他の学童は学校でやっていないのか。

事 務 局：学校の中は四小だけ。

委　　員：保護者としては、学校で学童をやっていただけるのが一番安心である。他の学校もぜひやったら良いのではと思う。

委　　員：学童について、就学前の健診時に学童をすでに探しているかたも多い。学校でやってもらえると安心と思う。

委　　員：次回時間を作ってお話をさせていただきたい。

委　　員：保育園、幼稚園の就園率について、幼稚園では教育的な面も考えながら子ども達が楽しく過ごせるよう一生懸命やっているが、保護者のニーズは長時間保育に向いていて寂しい思いをしている。保育料無償化というところも、幼稚園にとっては決してプラスではなく、給食費別扱い、預かり保育の保育料も別扱いになるのではと思うと、保育園と比べると金銭的な面でますます厳しくなるのではと思う。

委　　員：昔は、子育ては近所の助け合いでどうにかやってきていたが、今と昔は大分変ってしまった。

(3)その他　幼児教育、保育の無償化について

・事務局より説明

4.閉　　会